

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成24年6月7日現在

機関番号：27104

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011

課題番号：23652090

研究課題名（和文）日本語と韓国語における「直訳できない構造」について

研究課題名（英文）A Contrastive study on the differences of modes of expression in Japanese and Korean

研究代表者

金 恩愛 (KIM Eunae)

福岡県立大学・人間社会学部・講師

研究者番号：00535388

研究成果の概要（和文）：

日本語と韓国語はともに膠着語として分類され、文法的に多くの類似点を持つが、表現様相の観点から見たとき、両言語は微妙な違いを見せる。本研究は、言語資料として日本語の小説とその小説の韓国語翻訳書を使用し、表現様相の観点から日本語と韓国語の相違点を明らかにしようとしたものである。主として「名詞」「接続詞」「指示代名詞」及び「主語」をめぐる直訳できない構造を中心に考察を行ったものである。

研究成果の概要（英文）：

Both Japanese and Korean are classified as agglutinative languages, and they seem to have a lot of grammatical similarities. However, under closer scrutiny, the two languages exhibit subtle differences. This study focuses on the differences of modes of expression in Japanese and Korean and investigates the differences in the structure of the two languages from the viewpoint of nouns, conjunctions, demonstrative pronouns, and subjects. To investigate the differences of modes of expression in Japanese and Korean, this study analyzes the Japanese novels and their Korean translations.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	700,000	210,000	910,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語（その他の語学）

キーワード：日韓対照研究、表現様相、翻訳テキスト、直訳、基準言語、対照言語

1. 研究開始当初の背景

日本語と韓国語は、同じ漢字文化圏という背景とともに、文法的にも多くの類似点を持つ。例えば、語順については、日本語と同様に、韓国語でも「主語＋目的語＋述語」「修飾語＋被修飾語」の構造をとるのが一般的である。

しかし、同じ場面が与えられた時、それぞれの言語がどのような表現を選択していくのかという観点から、日本語と韓国語を見比べると、両言語における表現様相の違いは相当なものである。例えば、韓国語では、写真

館などで写真を撮ってもらうとき、「綺麗に撮ってください！」という表現をよく使う。また、洋服を購入したお客さんが帰るとき、店員はお客さん(女性の場合)に「可愛く着てください」という表現をよく使う。日本語でも同一の場面が与えられたとき、「(写真)綺麗にとってください!」「可愛く着てください」と言えなくはない。これは文法的な表現であり、可能性としてはありうる表現、現れる表現であるが、はたして日本語でこれらの表現が使われるかどうかは疑問である。

ある言語において、ある表現が存在しうる

というのと、実際に使用されるかどうかは峻別されるべき問題であるが、この基本的なことが、日韓対照研究では疎かにされてきた嫌いがある。

本研究は、可能性として現れうる表現ではなく、実際に〈現れた表現〉を研究対象とすることで、文法的な類似性に隠れ、なかなか見えてこなかった日本語と韓国語における表現様相の違いを描くことを試みる。

2. 研究の目的

本研究は、同一の場面が与えられた時、それぞれの言語がどのような表現を選択していくのかを問う、表現様相論の観点から、実際現れた言語事実を対象とし、「日本語と韓国語における直訳できない構造」について考察を行うものである。

3. 研究の方法

金恩愛(2003)に倣い、基準言語を日本語とし、対照言語を韓国語に設定した。言語資料は、基準言語である日本語の小説(原テキスト)と、同一の場面の確保のため韓国語版翻訳テキストを用いた。

- (1) 日本語の小説とその小説の韓国語翻訳書を選定し、入力及び誤入力の確認作業を行った。
- (2) 上記の電子化したデータをもとに日本語と韓国語の対訳コーパスを作成した。
- (3) 上記の日韓対訳コーパスを検討し、一対一的に対応しない用例を抽出した。

上記に使用した基準言語(日本語)は、100作品から100文ずつ、全10,000文である。

対照言語(韓国語)は、日本語の10,000文に対する韓国語の訳文である。

4. 研究成果

本研究は、可能性として〈現れうる表現〉ではなく〈実際現れた表現〉を対象に、「非文か否か」ではなく「自然か否か」に焦点を当てることで、日本語と韓国語におけるいくつかの表現様相の差異を見つけることができた。日本語と韓国語における〈直訳できない構造〉として、特に注目に値する言語事実としては以下のようなものがある：

(1) 名詞をめぐる直訳できない構造

日本語の名詞的な表現が韓国語では動詞的な表現に変わって現れる。これについての詳細は、金恩愛(2003、2006、2009)を参照されたい。今回の調査においても日本語の名詞的な表現に対し、韓国語で動詞的な表現で現れやすいことが確認された。以下、例文の出

典がないものは、聞き書きなどに拠るものである。

「めがねの子、可愛い顔してるね！」

안경 낀 애, 귀엽게 생겼네!

(lit. めがねかけた子、可愛くできたね)

日本語では、「めがねの子」のように、名詞を中心に表現されるところが、韓国語では「めがねかけた子」のように、動詞を用いた表現で現れる。また、「可愛い顔してるね」では「可愛い顔」という名詞句が実質的な意味を持つが、韓国語では、「顔が可愛いね」という表現に変わり、「可愛い」が述語として用いられている。また、以下のように、日本語の複合名詞や派生名詞の発達に原因を求められる場合もある。

早起しなくちゃ。

빨리 일어나야지.

(lit. 早く起きなきゃ)

着替えをしながらフト考えた。

옷을 갈아입으면서 문득 생각해 보았다.

(lit. 服を替えながら)

何か探し物ですか。

뭐 찾고 계세요?

(lit. 何か探していますか)

(2) 接続詞をめぐる直訳できない構造

日本語の原文にはなかった接続詞が、韓国語では現れる傾向がある。

自分で認めるのは少し悔しいが、事実だからしかたない。■その夜も。(重松清/16)

스스로 인정하는 건 억울하지만 사실이니

어쩔 수 없지. 그리고 그날 저녁에도

역시 (김훈아/14)

(lit. 自分で認めるのは少し悔しいが、事実だからしょうがない。そしてその夜もやはり)

上記の例のように、日本語にはなかった接続詞が、■のところに、韓国語では接続詞「그리고(そして)」が現れている。

結婚して七年。子供をつくらないと決めて暮らしてきたわけではない。三十一歳で結婚した時は、すぐにでも欲しいという気持ちがあった。■半年ほど期待して過ごしたが、妊娠するかもしれない、と考えながら暮らすことが、どれほど仕事やプライベートに制限が課せられるか身にしました。(唯川恵/9)

결혼하고 7년. 아이를 가지지 않기로 결정하고 살아온 것은 아니다. 서른하나에 결혼했을 때는 당장이라도 가지고 싶었다.

그러나(しかし) 반년 정도 기대감에 부풀어 지내는 동안 임신이라는 걸 염두에 둔 채 생활하는 것이 얼마나 일이나 사생활에 제한을 가져오는지 절실히 깨달았다.

(남주연/10)

だからわたしのうちでは、あれに世話になるのはよしたほうがいいな、とひごろから話し合っていた。■九十九さんはひとが良い。謙虚で、恩を着せない。居直れば、いくらでもつけこめる。■うちの飲んだくれで賭け事に溺れ借金も大好きな、のちには大病を患いちちゃくちちんで弱っちくなつた、人生、けちよんけちよんに不運つづきだった父も、それから父よりスケールのちいさい小粒な兄も、九十九さんのひとの良さに長年つけこんできた。(重松清/10)

그래서 우리 집에서는 그 노인에게는 신세를 지지 않는 편이 낫다는 생각을 갖고 있었다. 하지만(lit. しかし) 쓰쿠모 씨는 사람이 좋다. 겸손하며 생색을 내지 않는다. 마음만 먹으면 얼마든지 이용해 먹을 수 있다. 그래서(lit.それで) 우리 집의 주정뱅이이며 도박에 빠져 빚더미에 앉은, 나중에는 중병까지 앓아 잔뜩 움츠러든 무기력한 아버지, 철저히 불운의 연속인 인생을 살았던 아버지와 그 아버지보다 도량이 좁은 소심한 오빠는 오랫동안 그의 좋은 인간성을 이용해 왔다.(김성기/14-15)

今回の調査では、接続詞をめぐる日本語と韓国語における表現様相の違いを指摘するに留まるが、今後より詳細な分析を通して、どのような環境で韓国語では日本語にはなかった接続詞が現れやすいかを明らかにしたい。

(3) 指示代名詞をめぐる直訳できない構造
日本語の「それ」に対して、韓国語ではより具体的な名詞を伴って現れる傾向が見受けられる。

僕はそれを聞いてちょっと意外な気がした。나는 그 얘기를 듣고, 약간 의외라는 느낌을 받았다.

(lit.僕はその話を聞いてちょっと意外な感じを受けた)

(4) 主語をめぐる直訳できない構造
金恩愛(2004)では、日本語の「副詞類+

する」の中で、韓国語で「主語」の形を伴って現れる例が指摘されている。

「わくわくした」→「가슴이 두근거렸다(lit. 胸がわくわくした)」

今回の研究を通して、主語の出現をめぐる日本語と韓国語の違いがより広範囲に渡っていることが明らかになった。

「ねえ、子供をつくらない？」(唯川恵/5)
“있잖아, 우리 아이 가질까?”(남주연/8)
(lit. ねえ、私たち子ども作ろう)

主語の出現について、文法的には日本語も韓国語も主語は必要な時だけ提示すればよいとされているが、同一の場面が与えられた時、それぞれの言語がどのような表現形式を選択していくのかを見たとき、日本語と韓国語とでは、主語の現れ方が異なることが分かる。

「小さい時からものを作るのが好きだった」(唯川恵/11)
유코는 어린시절부터 뭔가 만드는 것을 좋아했다。(남주연/13) (lit. 結子は子どもの頃から何かを作るのが好きだった)

また、以下のように日本語では主語「私は」が文中で現れているが、韓国語では主語を文頭に置こうとする傾向がより強い。

「絶望してわたしは答えた」(石井睦美/7)
나는 절망하며 대답했다。(고향옥/11)
(lit. 私は絶望して答えた)

主語の出現をめぐる問題については、今回の研究結果に基づいて今後より用例を増やし、どのような環境で主語が明示されやすいのか、などより詳細な分析を行いたい。

今回、指摘された個々の言語事実については、今後さらなる検討が必要だが、今回の調査を通して、表現様相論の観点からの日韓対照研究の意義・重要性が裏付けられたとも言えよう。

上記に挙げた例は、すべて日本語と同じ構造をとる韓国語の表現が可能である。それは、文法的であり、可能性として十分ありうる表現、現れうる表現であるが、実際現れた韓国語は日本語とは異なる表現を選択している。

本稿では、実際現れた表現だけを徹底して研究対象に限定することによって、両言語の文法的な類似性に隠れて今までなかなか表面化もしくは明示化できなかった日本語と韓国語における表現様相の違いの可視化することができた。

今回の報告書で指摘した日本語と韓国語

における「直訳できない構造」は、本研究が目標とする研究の第一歩と言えよう。今後さらに研究を深めれば、日韓翻訳や、言語教育、辞典編纂など、これら二言語間にまたがるあらゆる領域にその活用が期待される。

〈参考文献〉

- 金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verbally-oriented structure)」『朝鮮学報』第188輯。
- 金恩愛(2004)「日本語の「する」は韓国語でいかに現れるか—表現様相の対称構造と非対称構造」東京外国語大学大学院修士論文
- 金恩愛(2006)「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか—翻訳テキストを用いた表現様相の研究」『日本語教育』12号。
- 金恩愛(2009)「日本語の「名詞+の+名詞」は韓国語でいかに現れるか—第3の類型について」『カルチュラル(明治学院大学教養教育センター紀要)』第3巻1号。

〈言語資料〉

- 日本語の言語資料
- 石井睦美(2006)『卵と小麦粉それからマドレーヌ』東京：ジャンプ
- 重松清(1999)『日曜日の夕刊』東京：新潮社
- 大道珠貴(2003)『しょっぱいドライブ』東京：文藝春秋
- 唯川恵(2003)『100万回の言い訳』東京：新潮社
- 韓国語の言語資料
- 이시이 무쓰미(2005) 번역: 고향옥 “달걀과 밀가루 그리고 마들렌” 서울: 우리교육
- 다이도 다마키(2004) 번역: 김성기 “이렇게 쪼쪼한 로맨스” 서울: 황금가지
- 시게마츠 키요시(2004) 번역: 김훈아 “일요일의 석간” 서울: 소담출판사
- 유िका와 케이(2004) 번역: 남주연 “백만 번의 변명” 서울: 영림카디널
- (*日本語の韓国語表記は、原文のママ)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

金恩愛, (2012), 「日本語の「副詞類+する」は韓国語でいかに現れるか」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第21巻第1号, pp. 67-89, 査読無.

〔学会発表〕(計 1件)

金恩愛, 「日韓対照言語学1—言語教育の観点から日韓対照研究を考える」 「日韓対照言語学2—表現様相論の観点から日韓対照研究を考える」, 駐大阪韓国文化院「世宗学堂」主催「2011年度韓国語教師研修会(福岡)」, 2011年11月26日, 福岡アーバン・オフィス天神.

〔図書〕(計 0件)

〔その他〕

千葉大学にて行われた「外から見た日本語—対照研究は何か—」と題するリレー講義を通して研究成果の一部を紹介した。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金恩愛(KIM Eunae)

福岡県立大学・人間社会学部・講師

研究者番号: 00535388